

議 事 録

件 名	第 27 回児童虐待防止対策委員会	
日 時	令和 4 年 6 月 29 日（水）14：00～15：30	
場 所	久留米市公社会館メルクス 3 階	
出席者	委 員	吉岡委員長、古賀誠司委員、下川委員（代理 井上様）、河津委員、緒方委員、古賀智美委員、泉沢委員、清水委員、山崎委員、寺松委員、薄委員（代理 鶴様）
	事務局	家庭子ども相談課 深町、佐藤 安全安心推進課 柳、浦部、古賀
欠 席 者	佐田副委員長、早川委員、重永委員	
傍 聴 者	なし	
次 第	1. 開会挨拶 2. 自己紹介 3. 報告事項 （1）今後の主なスケジュールについて （2）セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について 4. 協議事項 （1）2021（令和 3）年度実績及び 2022（令和 4）年度方針（案）について （2）事前指導のプレゼン資料（案）について （3）広報啓発について 5. その他 （1）合同対策委員会におけるワークシートに関する報告 6. 閉会	

事務局 (安全安心推進課)	【報告事項】 (1) 今後の主なスケジュールについて説明 (補足)「セーフコミュニティ」とその再々認証について説明 質疑応答はなし
事務局 (家庭子ども相談課)	(2) セーフコミュニティに関する実態調査及び市民意識調査の結果について説明
委員 ①	データからは読み取れないかもしれないが、課題として、相談先を知っていても相談をしたり連絡をしたりする勇気がないということもあると思うので、今後調査項目に、「相談先を知っているけど連絡しづらかった」という項目を入れてもいいのかなと思った。
事務局 (家庭子ども相談課)	今後調査を行う場合、項目を検討する。
委員長	コロナでできなかったことが多いと思うが、そのあたりについて、事務局の考えを聞きたい。
事務局 (家庭子ども相談課)	「新生児訪問事業の地域連携」については、訪問家庭の同意をとって何うようにしている。コロナで断られたり人数制限をされたりしたこともある。今後も訪問家庭の同意があれば訪問する。 「赤ちゃんふれあい体験事業」については、感染症対策をしながらできる範囲で、助産師による講話・沐浴人形体験、妊婦ジャケット体験を提案している。実際に従来通り赤ちゃんを集めて実施しようとしている地域もあり、そこは学校と地域の考えに沿った形がいいと思うので、感染症対策を行いながら事務局も協力したいと思う。その都度打合せをしながら対応したいと考えている。 「児童虐待防止啓発事業」については、家庭子ども相談課の寺松委員から説明をお願いしたい。
委員 ②	要保護児童対策地域協議会（要対協）のみなさんと協力しながら、ゆめタウンや農業まつりなど街頭キャンペーンを行っていたが、ここ2年間、大規模な形での取り組みはできておらず、人との接触もあるので控えていた。今年度はさまざまなイベント等が開催されるようになったので、いろいろな工夫をしながら街頭キャンペーンなどが実施していけたらと考えている。あとは、去年はそういう街頭キャンペーンできなかった分、チラシの配布量を増やして窓口で配布してもらったり、オンラインで動画を流したり、ホームページに動画を上げるなどの工夫をした。今年はそれと並行しながら、以前ご協力いただいた要対協と連携した活動も、復活をさせたいと思っている。

	それから、昨年から、子ども自身が相談できる体制づくりというところで、コロナ禍でなかなか目に見えないところで児童虐待が顕在化しているということもあるので、学校と民間支援団体と連携して、授業の中で子ども自身が権利を知って、SOSを発信できる取り組みをさせていただいている。ぜひこの取り組みは継続し、関係機関と連携し、さらに子どもたちのSOSが相談機関につながっていくように考えているところである。
委員長	2年前のコロナで変わってきているので、取り組みも少し考えていく必要もあると感じた。 調査の結果、セーフコミュニティ自体を知らない方が多くいるのは、久留米市は転入転出が多いからだと思う。私たちの事業でも、半年間誰とも関わりがなかったり、学校の行事もなくなるなどいろいろなものが中止となり、保護者がひきこもりになったりしたので、転入時の案内をしていただければありがたいし、相談窓口の周知にもつながると思う。学校も積極的に行うのは難しいとは思いますが、各学校で赤ちゃんふれあい体験があるところないところで見えてくるものの調査とか、赤ちゃんふれあい体験を受けたお子さんの10年後など、これまで関わってきたので少し知りたいと思う。 いろいろとご意見をいただいて検討しながら、再々認証に向けた取り組みを行っていったらいいと思う。
委員 ③	セーフコミュニティ実態調査「問 7-2. あなたは、子育てに関して、相談できる人はいますか。」について、相談できる相手に幼稚園や保育園等が入っていなかったか。そういった回答はその他に含まれていたりするのか。
事務局 (家庭子ども相談課)	安全推進課では生データをもっているのですが、その他の回答やその中身を見て、皆さんに後ほど回答させていただく。
事務局 (家庭子ども相談課)	【追加回答】 幼稚園や保育園等に相談するという回答は、その他の中に2件（保育園、保育園の先生）あった。この質問は、セーフコミュニティの取組として進めている「相談機関の周知」が、どの程度浸透しているかを確認することを目的としている。このため、身近な方々以外の選択肢には、相談に特化した機関を列記したところである。 しかしながら、保育園や幼稚園、学校などを選択肢に設けることで、子育てに関する相談先の現状が、より明らかになると思われるので、次回以降の設問設計の際は、その点も考慮していきたいと思う。

委 員 ①	資料をみて、赤ちゃんふれあいは久留米市の中学校は全部の中学校しているかと思ったが、一部の学校でしか行っていないと知った。やっているところとやっていないところは違うのか。
事 務 局 (家庭子ども相談課)	三潞中学校などの取り組みを参考にして始めたと聞いている。学校の授業の都合と、地域との関係がある。
委 員 ①	命の大切さについては、できれば小学校か中学校で体験ができればいいと思う。ふれあい体験をする前とした後では子どもの体感が違い、子どもの話を聞いて親の気づきもあった。通常の授業も大事だが、こういった取り組みも大事だと思う。
委 員 ④	くるるんはこの事業を始めるときに関わっていた。中高生のボランティア講座を夏休みに開催していたが、ここ2年はできなかった。赤ちゃんふれあうところ、お母さんが一生懸命子育てをしているところを間近でみることで、子どもたちが命の大切さや自分の大切さ、自分が親に大事に丁寧に育ててもらっていたというような気づきがあったので、取り組みの提案をさせていただいて、こういった形になってきたと思う。取り組んでいただく中学校は、授業の中に入れるのが難しいということで、当時から学校によって温度差があったように思う。江南中で最初に取り組んだが、規模が大きくて、やりたいことが多すぎたように感じた。これでは学校は大変だと思ったので、もう少しコンパクトな形にしてもいいかもしれない。大人がいっぱい伝えたい気持ちはわかるが、絞った形で取り組んでみて、拡がるといいと思う。
委 員 ⑤	田主丸で7月の広報にのせてふれあいの親子の募集を行うようにしている。授業の一環で生徒全員行くと大変だと思う。授業の一環で行っているのか、学校で違うのか。
事 務 局 (家庭子ども相談課)	田主丸中は授業の一環として中学3年生全員で体験を実施している。校区の主任児童委員と民生委員が熱心に協力してくださっている。
事 務 局 (家庭子ども相談課)	【協議事項】 (1) 2021(令和3)年度実績及び2022(令和4)年度方針(案)について説明 質疑応答はなし (2) 事前指導のプレゼン資料(案)について説明
委 員 ①	児童虐待防止から離れるかもしれないが、地域自体が離れているというか、子ども会に入る人数が減っている。子どもは子ども会に入りたいけど両親が共働きで忙しく役員ができないという理由で入らない人がある。転入してきた時なども知らない担当の人に連絡するのに勇気が必要だった。マンションも多く、回覧板はなく、サロンの情報はマンションの掲示板だけである。家庭訪問にしてもズームでのやりとりや、電話だけでも継続的にあると、話したい人は話すことができる。大変だろうが、1回で終わらない継続的なものあればいいと思う。

事務局 (安全安心推進課)	子ども会の件などは、とても重要なことだと思っている。児童虐待防止対策委員会との関連でいくと、「新生児訪問事業の地域連携」の取組目標である「地域で気軽にできる体制作り」というところにも関わってくる。地域コミュニティは全体的に薄まっており、見守ることということは、児童虐待防止に関わらず、高齢者虐待であるとか、交通安全や防犯などでも校区全体でやっていただいているので、セーフコミュニティの安全安心のまち作り全体に繋がることだと思っている。そして、対策委員会それぞれの取り組みがあって、根っこの部分で地域コミュニティの力がある、そのことをみんなで課題認識し、連携しながら取り組んでいく。再々認証後の次のレベルアップ中では大事なことだと思っているので、事務局全体の課題として受け止め、地域の皆さんと話を進めていきたいと思う。
委員長	プレゼン資料について。他の委員会との関連というか、児童虐待防止は、DV 防止や自殺予防に関わっているところもあるので、他の委員会と連携した取り組みなどがあつたらいいのではないかなと思う。ご検討いただきたい。
事務局 (安全安心推進課)	(3) 広報啓発について説明
委員 ⑤	ユーチューブやラインをやっていただくのは助かるが、本当に末端の人に見られているかというところ。お年寄り、携帯を使えない人にはどうするのか。若者でも携帯電話は持っているけど市のユーチューブの情報を見たことないという人も結構いる。アピール方法を考えなければいけない時期に来ているのではないかなと思う。
事務局 (安全安心推進課)	その通りだと思う。まち連の事業説明会などで、情報がなかなか届きにくいところやそうした方への対応などを、地域の方にできれば相談させていただきたいと思っている。どれだけできるかわからないが、他の SNS も利用するなどの着眼点はもっている。
委員長	全体を通してなにかあれば。 質疑応答はなし